



## 研究用試薬

# ヒストファイン

### 第一抗体

抗低分子サイトケラチンモノクローナル抗体(DC10/5D3) (ヒストステイナー用)

(動物種 : マウス)

包装 : 60 テスト (12mL)

Code : 713731

製造販売元

## 株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。

\*■**特異性および抗原分布**：ヒト組織中のヒトケラチン 8(52.5kDa)、18(45kDa)と特異的に反応する。ケラチンは分子量(MW)、等電点(pI)により分類される。ヒトケラチン 18\*と反応するクローン(DC10)と、ヒトケラチン 8 および 18 と反応するクローン(5D3)の、2つのクローンから成るカクテル抗体である。正常では、全ての単層上皮と腺上皮に反応がみられる。腫瘍では、腺癌に反応がみられ、角化型扁平上皮癌には反応がみられない。

■クローン名 : DC10

■抗体のサブクラス : IgG1

■免疫原 : ヒト乳癌 PMC42 細胞

■製法 : マウスの腹水より精製している。

■クローン名 : 5D3

■抗体のサブクラス : IgG1

■免疫原 : ヒト乳癌細胞株 MCF-7 由来のサイトケラチン

■製法 : ハイブリドーマの培養上清より得ている。

### 1. 内容

2 種類の抗体のカクテル抗体である。

第一抗体・・・抗低分子サイトケラチンモノクローナル抗体(DC10/5D3)(動物種 : マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と 0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1 バイアル中に 12mL を含む。

### 2. 使用目的

組織・細胞中のヒトケラチン/サイトケラチン 8、18 の染色

### 3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

### 4. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

### 5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

### 6. 貯法

2-8℃保存。

## 7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織（細胞）化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗低分子サイトケチンモノクローナル抗体 (DC10/5D3)
試薬略称(10文字)	CKLMW-MM
バーコード	CKLMW-MM
時間(分)	30

## 8. 主要文献

- (1) Angus B., et al: A Journal of The Pathology 153:377-384,1987
- (2) L. Lauerova, et al: Hybridoma 7:495-504,1988
- (3) Angus B., et al: A Journal of The Pathology 155:71-75,1988
- (4) Z. Suo, et al: Histopathology 23:45-54,1993
- (5) Graham R. Ogden, et al: J Oral urnal Pathol Med 22:82-86,1993
- (6) K. Y. Lam, et al: Virchows Ardh 426:345-349,1995
- (7) Maurizii M G., et al: Molecular Reproduction and Development 48(4): 536-542,1997
- (8) Brotherick I., et al: Cytometry 32(4): 301-308,1998
- (9) Méhes G., et al: American Journal of Pathology 159(1):17-20,2001

■ 研究用としてのみ使用すること。

### ■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばした切片(3-4 μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化): オートクレーブ処理
  - ①緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
  - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
  - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
  - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
  - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。  
※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
  - ⑥スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

### ・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL (用時調製)

A液: 0.1M クエン酸水溶液: 常温で保存可能

クエン酸一水和物(C<sub>6</sub>H<sub>8</sub>O<sub>7</sub> · H<sub>2</sub>O)2.1g/精製水 100mL

B液: 0.1M クエン酸ナトリウム水溶液: 常温で保存可能

クエン酸三ナトリウム二水和物(C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>O<sub>7</sub>Na<sub>3</sub> · 2H<sub>2</sub>O)14.7g/精製水 500mL

ここから必要な時に調製する。